

令和4年度 事業報告

I. 事業概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会（以下「協会」という。）は、歴史上・学術上価値の高い滋賀県の文化財を調査・研究するとともに、それらを文化資産として保護・活用をはかることによって、我が国の文化の向上に寄与してきた。

令和4年度は、引き続きコロナ禍において、国や県の情報収集に努め、令和2年度に策定した「事業継続計画」や「新型コロナウイルス感染症防止対策マニュアル」等に基づき、各施設や現場での感染予防対策の徹底に努めるとともに、状況に応じて適切に対応した。また、令和2年度より繰り延べていた協会設立50周年事業については、計画どおり事業を遂行した。

一方で、当協会の将来を見据えて、埋蔵文化財技師2名を採用し、体制の整備を図った。

発掘調査事業では国土交通省等の国事業、県の土木交通部および農政水産部等の公共事業に伴う発掘調査および整理調査に取り組むとともに、市町事業にも柔軟に対応するように努め、発掘調査および整理調査を受託した。

普及啓発事業では、これまで協会に蓄積された技術職員の経験やノウハウ等を活かして市町等に積極的なマネジメント、運営、広報を行い、併せてウイズコロナ・ポストコロナを見据えて、オンラインの活用の検討等、積極的な情報発信および主体的事業の実施に努めた。

滋賀県立施設管理運営業務では、滋賀県立安土城考古博物館の指定管理業務（令和3年度～令和7年度）を受託し、指定管理計画に基づき、2年目の管理運営事業等を実施した。

また、滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県埋蔵文化財センターの業務を受託し、管理運営事業等を実施した。

II. 協会運営

1. 役員会議等の開催

①決算監査	令和4年 5月 23日 (月)
②第1回定例理事会	令和4年 5月 27日 (金)
③定時評議員会	令和4年 6月 17日 (金)
④第1回臨時理事会	令和4年 6月 17日 (金)
⑤第2回定例理事会	令和4年 9月 15日 (木)
⑥第3回定例理事会	令和4年 12月 14日 (水)
⑦第4回定例理事会	令和5年 3月 15日 (水)

2. 管理事務

平成 30 年 3 月に策定した『第五次中期計画』（平成 30 年度～令和 4 年度）の最終年度にあたり、「より積極的な社会貢献のための攻めの経営」を基本理念にした事業方針を設定し、実現に向けて取り組みを行った。

同時に、『第五次中期計画』で達成困難であった項目および職員からの意見聴取とともに、次期『第六次中期計画』（令和 5 年度～令和 9 年度）の策定を行った。

III. 文化財に係る普及啓発事業

平成 31 年 4 月に施行された改正文化財保護法で示された文化財の計画的な保存・活用の促進を目指し、市町・民間との文化財活用事業の促進連携へ積極的に取り組む方針を立て、また新型コロナウイルス感染拡大に対しては予防策を徹底するとともに、オンライン方式の併用等により対応する方針で臨んだ。

1. 市町・民間事業者との連携事業に関する具体的な実施内容

(1) 市町等との連携

①「文化財保存活用地域計画」の作成事業の受託

米原市文化財保存活用地域計画作成事業支援の受託 (6/20 契約)

②「地域」を取り上げた文化財保存活用事業の実施

甲賀市・高島市・守山市とも連携しながら、協会設立 50 周年事業の展示として全県を対象とした「滋賀県埋蔵文化財地域展IV (7/23 (土) ~11/18 (金))」の実施と冊子等の作成を行い、今後の活用事業の基礎データを構築した。

参加者 3,466 名

③歴史文化遺産活用セミナーの実施

7/6 (水)「民間事業者から見た視点」

福井県若狭町と京都市等における民間事業者の取り組みについて、2 本の報告と質疑応答を対面方式で企画・実施した。

参加者 26 名

④文化財保存活用地域計画学習会の実施

第 1 回 6/28 (火) 京都橘大学村上裕通教授を講師とした学習会

参加者 24 名 (6 市町 10 名含む)

第 2 回 11/22 (火) 近江八幡市内関連文化財群の保存活用に関する学習会

参加者 24 名 (6 市町 11 名含む)

第 3 回 1/10 (火) 近江八幡市ヴォーリズ学園関連文化財の保存活用に関する学習会

参加者 19 名 (6 市町 8 名含む)

⑤多賀町からの『多賀の魅力発信リーフレット』関連事業の受託

平成 30 年度に作成した多賀町内に所在する多様な歴史文化遺産を紹介した「多賀の国の物語」1 ~ 4 のリーフレット 4 種類の一部修正と増刷業務を受託した。

(2) 民間事業者との連携

①県シルバー人材センター連合会等からの事業の受託

i) 遺跡発掘技能講習

9 月 ~ 10 月に実施した。

修了者 20 名

ii) ガイド育成講座

A 厚生労働省の補助金が下りなかつたため、県シルバー人材センター連合会等からの事業委託としては実施していない。

B 昨年度までの修了生の活躍の場づくりのために、修了生が提出した観光ガイド企画案を吟味・調整し、良好な企画案について、連携・協働を進める株式会社平和堂（旅行センター）に一般向け観光ガイド企画として紹介した（修了生 3 名・企画 5 本）。

②講師派遣の事業

i) 滋賀リビング新聞社主催リビングカルチャー俱楽部との連携

A 浜大津会場において、「歴史は現場にある」をテーマとする歴史講座を 4 月から月 2 回ずつ実施した。 24 回 受講者延べ 236 名

B 県埋蔵文化財センター研修室ほかを会場とし、夏休みの自由研究のサポートとして、遺跡出土の動物骨格等の解説+実物の標本づくり（コイ）を 7/30（土）に実施した。 受講者 1 名

ii) 株式会社平和堂（旅行センター）企画主催事業での連携

旅行センターが企画主催する「ビワの WA ! 滋賀」「ビワの WA ! 滋賀・城盗りっぷ」を対象として、石山店とビバシティー彦根店に対して講師を派遣するとともに、その事業展開（講座のラインナップの構成、オンライン方式の併用等）に対して積極的に提案した。 3 回 受講者延べ 24 名

2. 大学との連携事業に関する具体的な実施内容

（1）大学専攻生のインターンシップの受け入れ

「滋賀県埋蔵文化財地域展IV」における展示解説の企画作成業務に、京都橘大学文学部の 2 回生 3 名を 8/2~8/6 に受け入れた。成果公表の一環として学生自身による展示解説状況を記者発表した。

（2）調査補助員としての受け入れ

受け入れによって専門職員を目指す考古学等専攻生の意識と技術の向上に貢献した。

①夏期休暇期間

専攻生（15 名：滋賀県立大学 7 名・京都橘大学 8 名）を対象に、「滋賀県埋蔵文化財地域展IV」の展示解説員として受け入れた。

②春期休暇期間

専攻生（7 名：滋賀県立大学 4 名・京都橘大学 3 名）を対象に、発掘調査・整理調査の調査補助員として受け入れた。

（3）大学が実施するオープンキャンパスへの協力

滋賀県立大学への協力を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

（4）展示広報用チラシの企画・作成

「滋賀県埋蔵文化財地域展IV」の広報用チラシの企画・作成作業に、滋賀県立大学

の学生（1回生～3回生）を夏期休暇期間中に受け入れ、専門職員を目指す考古学等専攻生の意識と技術の向上に貢献した。

3. 文化財情報発信事業に関する具体的な実施内容

（1）発掘・整理調査成果の発信

①「レトロ・レトロの展覧会」の開催

特別陳列1 大津市大野遺跡・普門南遺跡発掘成果速報を5/16（月）～7/8（金）に開催した。見学者 103名

特別陳列2 野洲市福林寺古墳群の発掘成果速報を12/12（月）～3/31（金）に開催した。見学者 173名

②「あの遺跡は今！2022」の開催

新型コロナウイルス感染拡大に留意したうえで、安土城考古博物館の回廊を主会場として、夏休み期間中の7/30（土）・7/31（日）に開催し、展示ならびに安土分室における調査作業内容の解説を実施した。見学者 375名

（2）講座事業

①連続講座「文化財もの知り学」（全7回）

調査員が直接携わってきた調査・研究成果をテーマとした講座を6月から12月にかけて実施している。新型コロナウイルス感染予防対策の一環としてオンラインでのライブ中継を取り入れ、滋賀県埋蔵文化財センター研修室（定員23名）を本会場とし、サテライト会場となる安土城考古博物館（11名）と自宅受講（39名）を繋いで実施した。また、大学連携事業として滋賀県立大学と京都橘大学の専攻生（23名）、市町・民間事業者との連携事業として多賀町文化財センター（5名）・平和堂石山店（11名）にもオンラインで講座を繋いで実施した。計 112名

②体験講座

埋蔵文化財センターが、新型コロナウイルス感染拡大のために規模を縮小しながら、勾玉制作体験、染物体験、鋳造型体験を夏休み期間中に実施したのでバックアップした。利用者 80名

（3）協会の取り組みの外部への情報発信事業

①研究紀要の発行

7本の研究論文を掲載し、3月末に刊行した。

②機関誌「おうみ文化財通信」の刊行

7/1に夏号（vol. 52）、10/1に秋号（vol. 53）、1/1に冬号（vol. 54）を刊行し、春号（vol. 55）を令和5年の4/1日付けとして刊行した。

③ホームページの充実と更新

i) 実施した文化財情報発信事業の内容等をブログ等で発信した。

ii) 新企画

A 上記2の（1）で掲げた専攻生のインターンシップの受け入れにおいて「滋

「賀県埋蔵文化財地域展IV」の展示解説動画（2本）を作成し、YouTubeに連携させて情報発信した。

B 「私たち」や「私たちの仕事」の実態・魅力・価値等をより多くの人々に伝えるために、当協会本部ホームページ独自の読み物コンテンツとして、「インタビュー／私の履歴書」を新たに開始した。

iii) リニューアル

掲載情報の整理、情報間の関連性・連動性の強化、セキュリティとサーバーの安定性の強化を目的にホームページのリニューアルを実施した。

④文化財行事案内（DM）の発送

市町・民間企業主催の事業案内も含め、第1回を6月末に、第2回を9月末に、第3回を12月末に、第4回を3月末に発送した。

会員 142名（令和5年3月現在）

⑤広報事業

滋賀リビング新聞広告8回を実施し、県南14万世帯（特にファミリー層）に向けて協会が実施する事業（連続講座・地域展等）の情報を広く発信した。

⑥協会事業広報媒体の作成事業

新規職員の採用募集等に備え、学生向けの「業務内容の紹介パンフレット」を作成し、文化財専門職を目指す学生に配布した。

⑦歴史文化遺産ガイド育成講座

上記1-（2）-①-ii) のガイド育成講座にかわり、歴史遺産の活用を通して地域の活性化と人材育成に貢献しつつ、文化財を取り扱う公益財団法人としての信用とスキル、ブランド力を向上させることを目的とし、歴史遺産ガイド育成事業準備資産による育成講座の初級編を1月下旬に実施した。 参加者 22名

⑧びわこ文化公園3館連携事業

広く県民に滋賀県の歴史・文化財の奥深さを実感していただく機会の創出とびわこ文化公園都市の活性化を目的とし、滋賀県立美術館・滋賀県立図書館と共同で講演会（「梨畑とため池 濑田丘陵の魅力をさぐる」龍谷大学横田岳人准教授）を11/19に実施した。 参加者 70名

滋賀県文化財保護協会 普及事業状況票(令和4年度)

※※7月における協会本部の「ホームページアクセス数」の急減の原因は使用するウェブサーバーの不具合 ⇒ 秋以降のリニューアルにおいて使用者を変更することで改善する見込み。

IV. 埋蔵文化財発掘・整理調査事業

令和4年度に実施した発掘調査件数は14件（令和3年度：12件）、整理調査は17件（令和3年度：15件）の計31件（令和3年度：27件）である。調査面積は30,231.34m²（令和3年度：40,554.56m²）で、前年度調査面積比74.54%である。

契約件数による事業別では、発掘調査では国土交通省2件・県土木交通部9件・県農政水産部2件・市町関係1件（大津市）の事業を実施した。

なお、発掘調査に係る現地説明会・調査報告会については、令和3年度までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加対象者を地元住民に限定する、あるいは記者発表のみにとどめる等の措置を取らざるを得なかつたが、令和4年度については感染防止策を十分に講じたうえで開催することとした（表1参照）。

整理調査では、国土交通省4件、ネクスコ中日本2件、ネクスコ西日本1件、県道路公社1件、県土木交通部5件、県農政水産部1件、市町関係3件（草津市・彦根市・米原市）の事業を実施した。また、発掘調査報告書（表2参照）については6冊を刊行し、関係機関等へ配布した。

1. 発掘調査事業（図1・表3参照）

（1）佐和山城跡（彦根市、国土交通省事業、1,469m²）

国道8号米原バイパス建設工事に伴う調査（平成30年度から継続）。佐和山城下町推定域の北端周辺で調査を実施し、外堀・区画溝・柱穴等の遺構を検出した。また、これらに伴い土器・陶磁器・木製品・石製品等の遺物が出土した。遺物の時期からこれら諸遺構の年代は概ね16世紀後半頃と目される。

（2）出庭遺跡（栗東市、国土交通省事業、9,920m²）

一般国道1号野洲栗東バイパス建設工事に伴う調査（平成30年度から継続）。鍛冶工房を含む古墳時代前期の竪穴建物・掘立柱建物・溝・谷状地形や、奈良時代の溝、鎌倉時代の掘立柱建物、室町～江戸時代の条里溝等を検出した。また、これらの遺構に伴い、古墳時代前期から江戸時代にかけての土器類・石製品等が出土した。

（3）里西遺跡（大津市、県土木交通部事業、3,746m²）

南郷桐生草津線補助道路整備工事に伴う調査。調査の結果、調査対象地全域で縄文時代から室町時代にかけての遺構・遺物を確認した。弥生時代後期～終末期の竪穴建物や鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物や井戸・土坑・水路等を検出した。

弥生時代の竪穴建物は2棟確認し、そのうちの1棟は大型の五角形竪穴建物で、出土した遺物から弥生時代終末期頃のものである。鎌倉時代から室町時代にかけての屋敷地では、屋敷内に設けられた土坑墓を1基確認した。この遺構からは、土師器皿・青磁碗・鉄製品（小刀・鉄）のほか、鳥帽子が出土した。

(4) 比江遺跡 (野洲市、県土木交通部事業、776.34 m²)

近江八幡守山線補助道路整備工事に伴う調査。調査の結果、鎌倉時代から室町時代の井戸や溝、土坑・小穴等の遺構を確認した。これらに伴い、土師器・黒色土器等の土器類のほか、曲物・箸等の木製品が出土した。

(5) 朽木陣屋跡 (高島市、県土木交通部事業、2,083 m²)

小浜朽木高島線道路整備事業に伴う調査。調査の結果、江戸時代の朽木陣屋を構成する堀・道路状遺構（登城道）・石列を確認したほか、これらをさかのぼる室町時代の土坑も確認した。これらに伴い、土師器・陶器・縄文土器等の土器類のほか、打製石斧等の石器類、銭貨等の金属製品が出土した。

(6) 御館前遺跡 (近江八幡市、県土木交通部事業、3,085 m²)

近江八幡竜王線道路整備事業に伴う調査。調査の結果、発掘調査の結果、弥生時代後期の竪穴建物、古墳時代の竪穴建物、鎌倉時代の掘立柱建物や土坑墓、土坑群を検出した。これらに伴い、土器（弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器等）や石製品（磨製石斧・砥石・台石・剥片・石槍等）等が出土した。

(7) 太田遺跡ほか (野洲市、県土木交通部事業、2,000 m²)

近江八幡守山線補助道路整備工事に伴う調査。調査の結果、古墳時代後期の溝および弥生時代後期を主体とする土器等を包含する堆積層を検出した。

(8) 大門池南遺跡 (多賀町、県土木交通部事業、1,300 m²)

佐目敏満寺線補助道路整備工事に伴う調査。調査の結果、平安時代の土坑墓や、時期不明の溝・土坑を検出した。平安時代の土坑墓からは、皇朝十二銭のひとつである隆平永宝や、腰帶を装飾する石製の丸鞘が出土した。

(9) 福林寺古墳群 (野洲市、県土木交通部事業、134 m²)

中ノ池川支流補助通常砂防（総流防）工事に伴う調査。令和3年度に実施した発掘調査の結果をうけて、現地での保存措置が決まった2号墳を対象に、遺構の保護を目的とする埋め戻しを実施した。これにより、墳丘盛土の流失や石室損壊のさらなる進行を防止でき、遺構を保護できた。

(10) 阿弥陀寺遺跡 (近江八幡市、県土木交通部事業、550 m²)

堂川補助通常砂防工事に伴う調査。調査の結果、調査区内で5ヵ所の平坦面と法面を支える石積や石垣、参道を確認した。寺院遺構と考えられる石垣の一部を確認したが、平坦面や石積は近世に発生した土石流によって損傷し、後世の築き直しと判明した。

(11) 江頭南遺跡 (近江八幡市、県土木交通部事業、51 m²)

日野川広域河川改修事業に伴う調査。設定した5ヵ所の調査坑のうち、4ヵ所の調査坑において、墳丘盛土を検出した。検出した墳丘盛土の状況から、前方後円墳の可能性が考えられる。また、後円部中央では主体部と考えられる遺構を検出した。

(12) 高野遺跡 (栗東市、県農政水産部事業、3,299 m²)

六地蔵地区ほ場整備その5工事に伴う調査。六地蔵遺跡の北半部で調査を実施し、竪穴建物・掘立柱建物・溝等の遺構を検出した。また、これらに伴い土器・石製品等の遺物が出土した。遺物の時期から、これら諸遺構の年代は概ね古墳時代後期頃と目される。

(13) 妙福寺遺跡 (彦根市、県農政水産部事業、1,818 m²)

犬上南部地区亀山工区排水路第10工事に伴う調査。調査の結果、弥生時代の川跡を複数検出し、これらに伴い弥生土器や木製品等が出土した。

(14) 南滋賀遺跡 (大津市、民間開発事業、0 m²)

大津市南志賀三丁目地先、民間宅地開発事業に伴う調査。近隣での調査履歴および試掘調査結果から、弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡。令和5年3月下旬から調査に着手したため、今年度は準備工のみ実施した。

表1 令和4年度 発掘調査に係る現地説明会・調査報告会、報道発表等の開催実績

公開日	参加人数	遺 跡 名	所在地	公開・発表 の方法	場 所	備 考 (対象者等)
8月20日(土)	195人	佐和山城跡	彦根市	現地説明会	現地	一般
8月28日(日)	160人	出庭遺跡	栗東市	現地説明会	現地	一般
11月23日(水)	30人	朽木陣屋跡	高島市	現地説明会	現地	地元
1月28日(土)	16人	佐和山城跡	彦根市	地元説明会	自治会館	地元
1月29日(日)	80人	里西遺跡	大津市	現地説明会	現地	一般
2月25日(土)	13人	妙福寺遺跡	彦根市	地元説明会	自治会館	地元
説明会 小計(a)	494人					
5月16日(月) ~7月8日(金)	103人	レトロ・レトロの展覧会 2022 特別陳列1(大野遺 跡、普門南遺跡) 「湖西を掘る ~真野川沿い の古墳時代・平安時代~」	大津市	遺物展示	埋蔵文化財センター	一般
12月12日(月) ~3月31日(金)	173人	レトロ・レトロの展覧会 2022 特別陳列2(福林寺 古墳群) 「古墳の発掘 ~葬送儀礼 の実像に迫る~」	野洲市	遺物展示	埋蔵文化財センター	一般
7月30日(土) ~7月31日(日)	375人	あの遺跡は今！ Part29 整理室へようこそ!! 考古学でよみとく近江の歴 史	栗東市 ほか	遺物展示・ 作業内容公開	安土城考古博物館 整理室	一般
展示会 小計(b)	651人					
合計(a+b)	1,145人					

- (1) 佐和山城跡
- (2) 出庭遺跡
- (3) 里西遺跡
- (4) 比江遺跡
- (5) 朽木陣屋跡
- (6) 御館前遺跡
- (7) 太田遺跡ほか
- (8) 大門池南遺跡
- (9) 福林寺古墳群
- (10) 阿弥陀寺遺跡
- (11) 江頭南遺跡
- (12) 高野遺跡
- (13) 妙福寺遺跡
- (14) 南滋賀遺跡

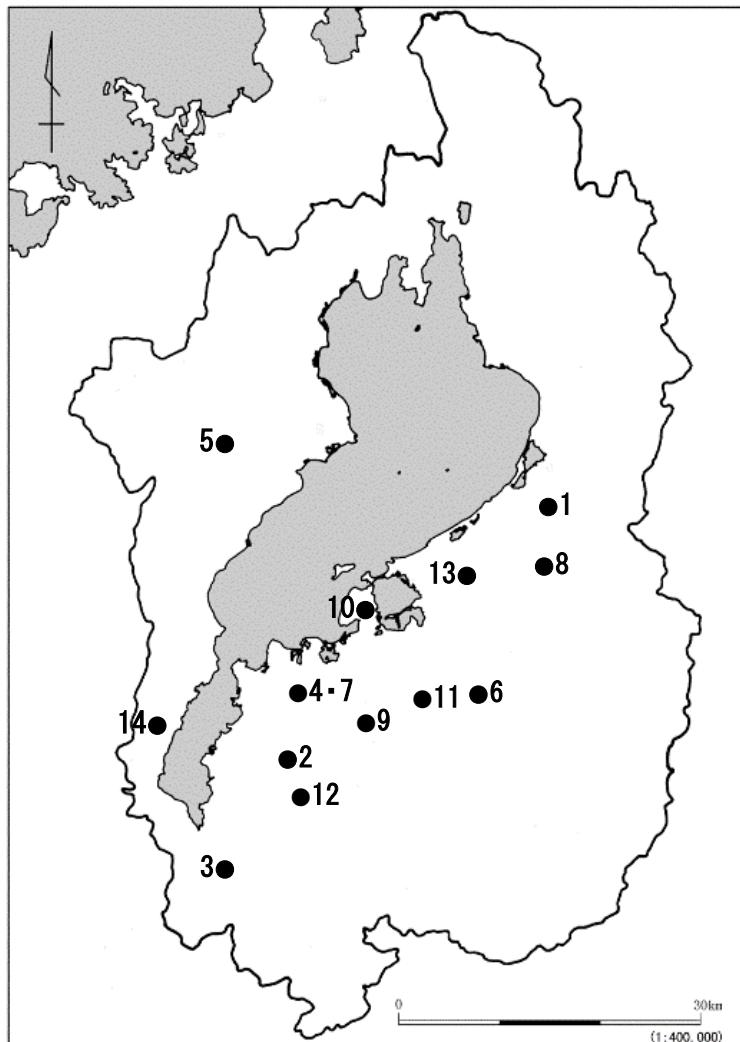


図1 令和4年度発掘調査遺跡の位置

2. 整理調査事業（表3参照）

（1）国土交通省事業

上砥山遺跡、辻遺跡・手原遺跡、佐和山城跡・矢倉川遺跡、惣山・京ヶ山遺跡の整理調査を行った。なお、佐和山城跡・矢倉川遺跡について、矢倉川遺跡分の報告書を刊行した。

（2）公社・旧公団事業

土田遺跡および敏満寺遺跡（ネクスコ中日本）、椿谷遺跡（ネクスコ西日本）、大野遺跡・普門南遺跡（滋賀県道路公社）の整理調査を行った。なお、土田遺跡、敏満寺遺跡、椿谷遺跡についてはそれぞれ報告書を刊行した。

（3）県土木交通部事業

湯ノ部遺跡ほか、里西遺跡、番場遺跡・播沢遺跡（道路整備課）、蜂屋遺跡（流域政策局）、福林寺古墳群（砂防課）の整理調査を行い、番場遺跡・播沢遺跡の報告書を刊行した。

(4) 県農政水産部事業

高野遺跡（耕地課）の整理調査を行った。

(5) 市町等事業

榊差遺跡ほか2遺跡（草津市）、福満遺跡（彦根市）、杉沢遺跡（米原市）の整理調査を行い、榊差遺跡ほか2遺跡の報告書を刊行した。

表2 令和4年度刊行の発掘調査報告書一覧

報告書名	所在地	事業者	内容
一般国道8号米原バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書5 矢倉川遺跡	米原市・彦根市	国土交通省	近世以前の堤防の一部を検出。また、矢倉川に向かって落ち込んでいく地形と遺物包含層を確認した。調査地周辺に縄文時代から近世にかけて集落が存在した可能性があることが判明。
名神高速道路（特定更新等）多賀地区車線拡幅工事に伴う発掘調査報告書 土田遺跡	多賀町	ネクスコ中日本	掘立柱建物・土坑・小穴等の遺構を検出し、これに伴い土師器・須恵器等が出土。遺物は細片に限られ遺構の時期や性格は不詳だが、主軸方位が概ね条里地割と同一であること、周辺の調査成果等を参照すると、8~14世紀頃のものと位置付けられる。
名神高速道路（仮称）多賀スマートインターチェンジ建設に伴う発掘調査報告書 敏満寺遺跡	多賀町	ネクスコ中日本	中世に盛期を誇った敏満寺の寺域北限とみられる溝を検出。 また、旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代草創期の堅穴建物とそれに付随する遺物（土器・矢柄研磨器・石鏃）等が出土した。
近畿自動車道名古屋神戸線（大津～城陽）建設事業に伴う発掘調査報告書 椿谷遺跡	大津市	ネクスコ西日本	発掘調査の結果、大正時代に操業していた石切場・石積・砂防堰堤・井戸等の構造を確認した。
日野徳原線道路整備工事に伴う発掘調査報告書 番場遺跡・播沢遺跡	日野町	国土交通省	縄文時代晚期から鎌倉時代にかけての遺構ならびに遺物を検出した。特に、古墳時代前期は播沢遺跡において活動痕跡が顕著となる段階で、溝・流路等を検出し、当該期の土器等が出土した。居住域については調査地近郊に存在する可能性がある。
大型商業施設建設事業に伴う発掘調査報告書 黒土遺跡発掘調査報告書	草津市	草津市	縄文時代から近世にかけての遺構ならびに遺物を検出した。特に奈良時代に既往調査で検出されていた長舎建物の一部を再確認するとともに、その建物近くの谷斜面において金属生産の実施が想定されることから、両者の関係を窺えた。

表3 令和4年度 埋蔵文化財調査事業一覧

1. 発掘調査事業

No.	契約番号	遺跡名	調査面積 (m ²)	検出されたおもな遺構と時期
国土交通省事業				
1	804	佐和山城跡	1,469	堀・区画溝・掘立柱建物・土坑・柱穴等の遺構を検出、これらに伴い土器・陶磁器類・木製品類・石造品類・金属製品類等の遺物が出土した。出土遺物の年代観から検出された諸遺構は、概ね16世紀後半から17世紀初頭に位置づけられる。特に城下町推定域の北端で検出した堀は位置・規模から考えて佐和山城の外堀と評価される。
2	807	出庭遺跡	9,920	鍛冶工房を含む古墳時代前期の堅穴建物・掘立柱建物・溝・谷状地形や、奈良時代の溝、鎌倉時代の掘立柱建物、室町～江戸時代の条里溝等を検出した。また、これらの遺構に伴い、古墳時代前期から江戸時代にかけての土器類・石製品等が出土した。
県土木交通部道路整備課事業				
3	802	里西遺跡	3,746	調査地全域で縄文～室町時代にかけての遺構・遺物を確認。弥生時代後期～終末期の堅穴建物や鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物や井戸・土坑・水路等を検出。堅穴建物は大型の五角形堅穴建物で、出土遺物から弥生時代終末期頃のものと推定。鎌倉時代から室町時代にかけての屋敷地では、屋敷内に設けられた土坑墓を1基確認。当該遺構から、副葬品として青磁碗・鉄製品（小刀・鉄）等のほか、鳥帽子も出土。
4	803	比江遺跡	776.34	鎌倉～室町時代の井戸や溝、土坑・小穴の遺構を確認。これらの遺構に伴い、土師器・黒色土器等のほか、曲物・箸等の木製品が出土。
5	821	朽木陣屋跡	2,083	江戸時代の朽木陣屋を構成する堀・道路（登城道）・石列を確認したほか、室町時代の土坑を確認。これらの遺構に伴い、土師器・陶器・縄文土器等のほか、打製石斧等の石器類・銭貨等の金属製品が出土。
6	827	御館前遺跡	3,085	調査の結果、弥生時代後期の堅穴建物、古墳時代の堅穴建物、鎌倉時代の掘立柱建物や土坑墓、土坑群を検出。これらに伴い土器（弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器等）や石製品（磨製石斧・砥石・台石・剥片・石槍等）等が出土。
7	828	太田遺跡ほか	2,000	古墳時代後期の溝および弥生時代後期を主体とする土器等を包含する堆積層を検出した。
8	829	大門池南遺跡	1,300	調査の結果、平安時代の土坑墓や、時期不明の溝・土坑を検出。平安時代の土坑墓からは、皇朝十二銭のひとつである隆平永宝や、腰帯を装飾する石製の丸鞘が出土。
県土木交通部砂防課事業				
9	822	福林寺古墳群	134	調査区内に所在する2基の円墳のうち、保存措置が決定した2号墳を対象に遺構の保護を目的とする埋め戻しを実施。
10	826	阿弥陀寺遺跡	550	調査区内で5ヵ所の平坦面、法面を支える石積や石垣・参道を確認。寺院遺構と考えられる石垣の一部を確認したが、平坦面や石積は近世に発生した土石流によって損傷し、後世の築き直しと判明。
県土木交通部流域政策局事業				
11	823	江頭南遺跡	51	設定した5ヵ所の調査坑のうち4ヵ所の調査坑において、墳丘盛土を検出。検出した墳丘盛土の状況から、前方後円墳の可能性もある。また、後円部中央では主体部と考えられる遺構を検出。
県農政水産部耕地課事業				
12	819	高野遺跡	3,299	六地蔵遺跡の北半部で調査を実施し、堅穴建物・掘立柱建物・溝等を検出。これらに伴い古墳時代後期頃の土器・石製品等の遺物が出土。
13	825	妙福寺遺跡	1,818	弥生時代の川跡を複数検出、それらに伴い弥生土器や木製品等が出土。
市町関係事業				
14	830	南滋賀遺跡	0	民間宅地開発に伴う調査。弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡。令和5年3月下旬から調査を開始したため、今年度は準備工のみ実施。
計		30,231.34		

2. 整理調査事業

No.	契約番号	遺跡名	発掘年度	報告書	検出されたおもな遺構と時期
国土交通省事業					
1	806	上砥山遺跡	H30～R2		飛鳥～奈良時代の河道や掘立柱建物等を確認、土師器・須恵器等の多量の土器や土馬、琴柱・馬鍬・豎杵・木皿・木錘等の木製品のほか、木簡や墨書き器等の文字資料や硯も出土。
2	808	辻遺跡・手原遺跡	H30・R1～3		古墳時代の豎穴建物（前期の鍛冶工房跡含む）・河道・掘立柱建物・井戸等を検出、それらに伴い土師器・須恵器・韓式系土器等の土器や、鉄器・鍛冶滓・玉類・砥石等が出土。
3	809	佐和山城跡・矢倉川遺跡	H30・R1～3	○	佐和山城の内堀・土塁のほか、城下町に関連する橋台遺構・掘立柱建物・井戸・土坑等を検出。遺構に伴い16世紀後半の土器・陶磁器、木器・金属器・石造品等が出土。矢倉川遺跡については遺物包含層を検出。縄文土器・弥生土器・陶磁器・石製品、木製品等が出土。
4	810	惣山・京ヶ山遺跡	R1・2		弥生時代後期の豎穴建物、古墳時代後期の横穴式石室等を検出。横穴式石室は出土遺物から、6世紀後半から7世紀初頭頃に築造。
ネクスコ中日本事業					
5	811	土田遺跡	R3	○	ピット・土坑等の遺構を検出。これらに伴い土師器・須恵器等が出土。
6	814	敏満寺遺跡	R2	○	縄文時代の豎穴建物を検出し、縄文土器・石製品が出土。また、室町時代の掘立柱建物・土坑・溝を検出、これらに伴い土師器・陶器が出土。
ネクスコ西日本事業					
7	813	椿谷遺跡	H29・R2	○	大正時代に操業した石切場の付属施設。石積・砂防堰堤を確認。
県道路公社事業					
8	815	大野遺跡・普門南遺跡	R2		古墳時代の豎穴建物・河川・溝、平安時代の掘立柱建物・土器埋納遺構等を検出。これらの遺構に伴い、土器（土師器・須恵器・白磁等）、木製品（下駄・木材等）、石製品（石鎚・剥片）が出土。
県土木交通部道路整備課事業					
9	805	湯ノ部遺跡ほか	H13・14・16・17・18・19		湯ノ部遺跡では弥生時代前～中期の溝・土坑・方形周溝墓等を検出、西河原宮ノ内遺跡では飛鳥～奈良時代の掘立柱建物・柵列等とともに木簡等が出土。比留田法田遺跡では飛鳥時代の南北溝のほか、中近世の条里溝等も検出。
10	817	里西遺跡	R2・3		縄文時代から室町時代にかけての遺構・遺物を確認。特に、鎌倉時代から室町時代にかけての集落に関する遺構は密度高く分布し、掘立柱建物・土坑墓・井戸・溝・土坑等を検出。この他、弥生時代後期の多角形豎穴建物、飛鳥時代の溝、古代の掘立柱建物等も確認。
11	818	番場遺跡・播沢遺跡	H29・30・R1	○	縄文時代の土器埋納ピット、弥生時代後期の流路跡、古墳時代前半期の土坑、中世の掘立柱建物跡・溝跡・土坑・小穴等を検出。
県土木交通部流域政策局事業					
12	816	蜂屋遺跡	H28～30		古墳時代前・中期の河川、平安時代末から鎌倉時代初頭の屋敷地を区画する溝、室町時代後期から安土桃山時代の井戸・土坑・河川、江戸時代中期の井戸・溝・土坑等、多数の遺構を検出。法隆寺式軒瓦など奈良時代の「蜂屋廃寺」関連遺物も出土。
県土木交通部砂防課事業					
13	812	福林寺古墳群	R2・3		調査区内に2基の円墳が所在。2号墳は南西方向に開口する横穴式石室を持つことが判明。3号墳は横穴式石室の構造が明らかとなり、副葬品の土器・鉄製品・耳環等が出土。
県農政水産部耕地課事業					
14	819	高野遺跡	H30・R1～3		古墳時代の豎穴建物、奈良時代から平安時代の掘立柱建物・東海道、平安時代の金属生産に関わる可能性のある炉状遺構のほか、溝・土坑・小穴が検出され、これらに伴い土器類（土師器・須恵器・灰釉陶器・綠釉陶器・黒色土器・陶器・瓦）、石製品（砥石）、金属製品（刀子・釘・金属滓）が出土。
市町関係事業					
15	801	榎差ほか2遺跡（草津市）	R2・3	○	奈良時代前半頃から鎌倉時代頃の掘立柱建物・井戸・土坑・溝、縄文時代から平安時代中頃の旧河道、江戸時代の野井戸を検出。
16	820	福満遺跡（彦根市）	H29・30		縄文時代後期の旧河道、古墳時代から奈良時代にかけての豎穴建物・掘立柱建物、平安時代の井戸等を検出。
17	824	杉沢遺跡（米原市・立命館大）	R2		令和2年に米原市教委・立命館大が実施した米原市杉沢遺跡の発掘調査で出土した縄文晚期深鉢4点について、発掘調査報告書作成に伴い接合・復元業務を受託。

表4 令和4年度文化財関係調査受託事業一覧表

令和5年3月31日現在

(単位:円)

契約番号	受託事業名	区分	原因者	契約額(税抜)	うち人件費	うち事務費
	(国土交通省関係)					
804	佐和山城跡	発掘	滋賀国道事務所	13,905,000	4,022,908	2,869,735
806	上砥山遺跡	整理	滋賀国道事務所	3,219,000	1,378,167	667,162
807	出庭遺跡	発掘	滋賀国道事務所	67,799,000	21,865,967	13,800,283
808	辻遺跡・手原遺跡	整理	滋賀国道事務所	1,825,000	1,326,088	449,211
809	矢倉川遺跡・佐和山城跡	整理	滋賀国道事務所	3,757,000	2,400,689	901,882
810	惣山・京ヶ山遺跡	整理	滋賀国道事務所	949,000	651,476	233,724
	6		小計	91,454,000	31,645,295	18,921,997
	(ネクスコ西日本・中日本)					
811	土田遺跡	整理	中日本高速道路(株)名古屋支社 彦根保全・サービスセンター	796,000	401,072	193,535
813	椿谷遺跡	整理	西日本高速道路(株)関西支社 新名神大津事務所	1,869,000	918,565	455,035
814	敏満寺遺跡	整理	中日本高速道路(株)名古屋支社 彦根保全・サービスセンター	1,871,000	1,008,261	460,072
	3		小計	4,536,000	2,327,898	1,108,642
	(県道路公社)					
815	大野遺跡、普門南遺跡	整理	滋賀県道路公社	3,286,000	2,351,944	799,676
	1		小計	3,286,000	2,351,944	799,676
	(県土木交通部関係)					
802	里西遺跡	発掘	大津土木事務所	54,180,000	20,428,957	11,381,198
803	比江遺跡	発掘	南部土木事務所	9,818,000	2,745,083	2,171,760
805	湯ノ部遺跡ほか	整理	南部土木事務所	15,354,000	10,831,211	3,783,817
812	福林寺古墳群	整理	南部土木事務所	1,668,000	1,208,063	419,889
816	蜂屋遺跡	整理	南部土木事務所	34,344,000	25,015,444	8,558,191
817	里西遺跡	整理	大津土木事務所	922,000	642,125	232,175
818	番場遺跡・播沢遺跡	整理	東近江土木事務所	1,760,000	582,380	437,400
821	朽木陣屋跡	発掘	高島土木事務所	22,527,000	7,914,559	4,777,263
822	福林寺古墳群	発掘	南部土木事務所	2,414,000	553,455	438,450
823	江頭南遺跡	発掘	東近江土木事務所	4,076,000	2,373,683	1,026,727
826	阿弥陀寺遺跡	発掘	東近江土木事務所	17,188,000	5,233,145	3,438,665
827	御館前遺跡	発掘	東近江土木事務所	28,371,000	9,720,724	5,979,745
828	太田遺跡ほか	発掘	南部土木事務所	19,479,000	7,345,801	4,187,897
829	大門池南遺跡	発掘	湖東土木事務所	13,444,000	4,424,770	2,898,270
	14		小計	225,545,000	99,019,400	49,731,447
	(県農政水産部関係)					
819	高野遺跡	発掘	大津・南部農業農村振興事務所	29,639,000	9,426,948	5,943,863
819	高野遺跡	整理	大津・南部農業農村振興事務所	22,735,000	16,984,918	5,467,082
825	妙福寺遺跡	発掘	湖東農業農村振興事務所	14,727,000	4,619,175	2,959,831
	3		小計	67,101,000	31,031,041	14,370,776
	(市町等関係)					
801	榊差ほか2遺跡	整理	草津市・パローホールデイ ングス	4,479,000	2,267,083	1,087,328
820	福満遺跡	整理	彦根市	8,218,000	5,732,207	2,070,790
824	杉沢遺跡	整理	米原市・学校法人立命館	986,000	717,542	247,876
830	南滋賀遺跡	発掘	大津市・高栄ホーム	162,000	84,999	40,576
	4		小計	13,845,000	8,801,831	3,446,570
	31		合計	405,767,000	175,177,409	88,379,108

V. 保存活用事業

1. 保存処理業務

当協会が受託した整理調査事業において保存処理業務を行っている。木製品はポリエチレングリコール含浸法や真空凍結乾燥法により上砥山遺跡、矢倉川遺跡、大野・普門南遺跡、福満遺跡、榊差遺跡からそれぞれ出土した木製品の保存処理業務を行った。

2. 写真資料等の貸出および掲載許可等

書籍等への掲載のための写真資料等の貸出や掲載許可等の業務を行っている。今年度は写真・イラスト資料の貸出は4件（掲載・転載を含む）であった。

VI. 「県立安土城考古博物館」「県立琵琶湖文化館」および「県埋蔵文化財センター」の管理運営事業

「県立安土城考古博物館」

1 展示事業

(1) 特別展

① 令和4年度春季特別展 開館30周年記念【京都新聞共同開催】

「戦国時代の近江・京都—六角氏だってすごかった!!—」

織田信長に逐われるまでの六角高頼・定頼・義賢の3代当主は、室町幕府内でも屈指の実力を誇り、その力ゆえに将軍親征を受けたり、京都を追われた将軍を庇護したり、三好長慶や管領細川氏らと対等に交渉していたことは、一般にあまり知られていない。この点にスポットをあて、六角氏の実力と同時代の人々との関係を残された資料から紹介した。

展覧会期：令和4年4月23日（土）～6月5日（日） 40日間

入館者数：6,385人

関連講座

5月29日（日）「戦国大名六角氏の史料—定頼期を中心に—」

村井祐樹氏（東京大学史料編纂所准教授）参加者 42人

② 令和4年度秋季特別展 開館30周年記念【京都新聞共同開催】

「里帰り！日本最大の銅鐸—太古の響きを安土の地で—」

野洲市大岩山遺跡から2回にわたって出土した24個の銅鐸。弥生時代後期の銅鐸を多数埋納した遺跡としては全国唯一の例であり、この中には日本最大の銅鐸が含まれている。東京国立博物館が所蔵するこの銅鐸をはじめとする大岩山銅鐸を集めて展示し、邪馬台国出現前夜に近江が担った役割を推理した。

本展は独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センターが実施する国立博物館所蔵品の貸与促進事業の採択をうけ、東京国立博物館の特別協力を得て実施した。

展覧会期：令和4年10月8日（土）～11月20日（日） 38日間

入館者数：4,232人

関連講座

10月15日（土）「大岩山銅鐸と弥生時代の青銅祭祀」

井上洋一氏（奈良国立博物館館長） 参加者 49人

11月 5日（土）「弥生時代後期の近江と大和」

桑原久男氏（天理大学文学部教授） 参加者 41人

(2) 企画展

① 第66回企画展「発掘された近江Ⅱ—遺跡アラカルト—」

近年発掘調査された遺跡の中から、近江の歴史を考える上で欠くことのできない重要な資料であるにもかかわらず、公開される機会の少ない資料を紹介した。

展覧会期：令和4年7月16日（土）～9月19日（月・祝） 62日間
入館者数：5,442人

関連講座

7月23日（土）	「六反田遺跡」 堀 真人（当協会）	参加者 17人
7月30日（土）	「上御殿遺跡」 中村智孝（当協会）	参加者 14人
8月20日（土）	「入江内湖遺跡」 瀬口眞司（当協会）	参加者 18人
9月17日（土）	「十里遺跡」 北原 治（当館学芸員）	参加者 22人

② 第67回企画展・琵琶湖文化館地域連携企画展

「琵琶湖文化館収蔵品に見る四季」

琵琶湖文化館が収蔵する近世絵画を中心に、作品に表現された季節の美しさに焦点をあてて展示紹介した。

展覧会期：令和5年2月4日（土）～4月2日（日）

入館者数：3,376人（3月31日現在）

関連行事

3月19日（日）	座談会「新しい文化館と収蔵品を語る」 和澄浩介氏、田澤梓氏（琵琶湖文化館学芸員）、 福西貴彦氏（県文化財保護課主査）、岩崎里水（当館学芸員）	参加者 30人
----------	--	---------

（3）特別陳列

最近の発掘調査成果から注目されたトピックを取り上げ、望楼下において常設展示等の展示ケースを使用して展示紹介した。

ア. 近江の遺跡発掘成果 I

「中世大名の菩提寺－能仁寺遺跡の蔵骨器－」

会期：令和4年6月7日（火）～7月14日（木）

内容：京極氏の歴代墓所である米原市清滝寺の隣から見つかった第5代当主高誼の菩提寺、能仁寺跡。中世大名墓所である能仁寺跡と、寺院の背後の墓地から見つかった瀬戸焼の蔵骨器を紹介した。

イ. 近江の遺跡発掘成果 II

「良い年になりますように！－招福と無病息災のラッキーアイテム－」

会期：令和4年11月26日（土）～令和5年1月22日（日）

内容：昔の人びとが感染症や災害を避け、幸せに暮らすための祈りや願いを

こめて使った木簡や墨書き土器を紹介した。

(4) 近つ飛鳥博物館連携事業『でかける博物館 in 滋賀県立安土城考古博物館』

「近つ飛鳥博物館の鏡」

会期：令和4年8月19日（金）～10月28日（金）

内容：大阪府立近つ飛鳥博物館の収蔵品から、古墳に副葬された中国鏡とそれを模倣した国内鏡を選び、御旅山古墳出土の三角縁神獣鏡、内行花文鏡、そして出土地不明ながら環状乳神獣鏡、重列式神獣鏡、走獣十二支文鏡を紹介した。

なお、近つ飛鳥博物館では8月20日（土）～10月26日（水）に「天智天皇の近江大津宮周辺の謎の古代寺院—史跡 穴太廃寺跡—」と題して、当館所蔵の風鐸、瓦を展示紹介した。

2 講座事業

(1) 博物館講座事業

①城郭講座（全3回）

県文化財保護課彦根城世界遺産推進室の職員を講師に迎え、『彦根城を世界遺産に』と題して、世界文化遺産登録をめざしている彦根城の魅力を紹介する講座を実施した。

第1回 4月23日（土）「入門世界遺産」

細川修平氏（県彦根城世界遺産登録推進室） 参加者 24人

第2回 5月21日（土）「彦根城の価値」

鈴木達也氏（県彦根城世界遺産登録推進室） 参加者 31人

第3回 6月11日（土）「彦根城が語る新しい江戸時代像」

細川修平氏（県彦根城世界遺産登録推進室） 参加者 27人

②入門講座（全3回）

常設展示室の展示品を当館学芸員が解説した。

第1回 6月19日（日）「大中の湖南遺跡の木製品」

伊庭 功（当館学芸課長） 参加者 6人

第2回 9月25日（日）「中世近江の村むら」

高木 叙子（当館学芸員） 参加者 20人

③連続講座Ⅰ「戦国の近江」（全5回）

長年にわたって近江の戦国時代と織田信長に関する研究に携わってきた松下浩氏（県文化財保護課安土城・城郭調査係）の研究成果を「戦国の近江」と題して紹介した。

第1回 5月14日（土）「近江戦国史概観」 参加者 43人

第2回 6月 4日（土）「六角氏と観音寺城」 参加者 41人

第3回 7月 2日（土）「湖北の戦国時代—京極氏と浅井氏—」

		参加者 37人
第4回	8月 6日（土）「戦国近江の諸勢力」	参加者 35人
第5回	9月 3日（土）「織田信長の登場」	参加者 33人

④連続講座Ⅱ「水の考古学」（全4回）

古墳時代の研究者であり、琵琶湖博物館の設立と長年にわたって運営に携わってこられた用田政晴氏（神戸学院大学教授）に、琵琶湖博物館のメインテーマである「水と人とのかかわり」について専門を生かした視点からグローバルな視野で紹介していただいた。

第1回	1月 19日（土）「王と武将の水の道をたどる」	参加者 25人
第2回	2月 11日（日）「湖国の湧水を探して歩く」	参加者 25人
第3回	1月 8日（日）「黄河と長江の遺跡と博物館をゆく」	参加者 19人
第4回	2月 11日（土・祝）「東南アジアと西アジアの水と暮らし」	参加者 17人

（2）体験学習・ワークショップ

史跡探訪、考古学に関する体験学習、博物館に親しむ催しを開催した。

- ・史跡案内〔春季特別展と桑實寺秘仏御開帳に合わせた企画〕

「觀音寺城跡」	4月 25日（月）	参加者 12人
「桑實寺」	5月 7日（土）	参加者 13人
・城郭探訪「安土城跡」	4月 30日（土）	参加者 13人
「桑實寺と瑠璃石」	11月 23日（水・祝）	参加者 2人
「安土城跡」	11月 26日（土）	参加者 7人
・親子写生大会	5月 1日（日）～5月 5日（木・祝）	参加者 32人

写生展示（エントランス・ホール）	6月 14日（火）～7月 3日（日）	
・子ども考古学教室	8月 1日（月）	参加者 11人
・勾玉を作ろう 第1回	7月 25日（月）	参加者 10人
第2回	8月 27日（土）	感染症感染拡大により中止
・正月飾りを作ろう	12月 3日（土）	参加者 8人
・子ども考古学教室	3月 26日（日）	参加者 9人

（3）その他の事業等

①開館30周年記念式典と特別展

春季特別展の開幕前日に知事の出席のもと、開館30周年記念式典を挙行し、続いて実施した特別展内覧会で展示品所蔵者と式典出席者を案内した。

また、10月 27日（木）には記念植樹を実施し、東近江市立湖東第二小学校の児童（25人）と当日の来館者の参加を得て植樹イベントを挙行した。なお、

植樹したサツキツツジは公益財団法人三菱 UFJ 環境財団から寄贈いただいた。

②京都新聞との特別展共同開催

広報戦略の新たな展開として、開館 30 周年記念展である春季・秋季特別展を京都新聞と共同開催とし、以下のような紙面の広報により誘客をはかった。

- ・新年特集にて主催事業紹介（春季展）
- ・当館に関する連載記事（4月～3月、計12回）
- ・半5段モノクロ広告 各2回、社告 各3回
- ・開幕直前のカラー特集記事 各1回
- ・開催中の取材記事 各1回 ほか

③広報戦略の新展開

- ・SNSを通した宣伝として、Google リスティング広告・Yahoo インフィード広告により春季特別展を広報した。
- ・博物館へのアクセス道路の街灯下に看板を吊り下げるとともに、安土城跡と市道桑実寺線からのアクセス道沿線に200本ののぼり旗を並べ、開館 30 周年を迎える当館をアピールした。
- ・秋季特別展では開幕前と開幕中に広告動画3本を作成し、YouTube にアップした。

④岐阜県イベントへの出展

8月29日（月）、滋賀県・岐阜県両知事の懇談と記者会見が当館セミナールームで開催され、当館と岐阜関ヶ原古戦場記念館との交流を深めることで合意がなされたことから、10月9日（日）・10日（月・祝）に開催された大関ヶ原祭2022に出展し、当館展示会をPRした。

⑤世界遺産登録をめざす彦根城ミニ展示等

彦根城の世界文化遺産登録をめざす県施策への協力の一環として、県彦根城世界遺産登録推進室が実施する彦根城のミニ展示を望楼下ロビーで行った。（展示品は彦根城天守閣の鬼瓦等とレゴブロックで製作したミニチュア天守閣など）

また、同室が製作した横断幕をエントランス2階手すりに掲示し、気運醸成に協力した。

3. 博学連携事業

（1）博物館実習生の受け入れ

日 程：令和4年8月23日（火）～28日（日）までの6日間

実習生：10名（京都橘大学2名、滋賀県立大学2名、追手門大学2名、

京都文教大学1名、立命館大学大学院1名、京都芸術大学1名
近畿大学1名)

(2) 学校活動支援

感染症拡大予防措置として休止していた学校の来館学習における体験学習メニュー（火起こし、土器に触れよう、勾玉作り、ビデオ鑑賞）を、今年度から再開した。

	日 時	学校名	人数	引率	内 容
1	4月 20日 (水)	県立鳥居本養護学校中学部生	2人	4人	展示見学、ビデオ鑑賞、 土器に触れよう
2	4月 26日 (火)	近江八幡市立岡山小学校 6年生	91人	6人	展示見学、土器に触れてみよう、 火起こし体験
3	5月 13日 (金)	近江八幡市立武佐小学校 6年生	30人	3人	展示見学、火起こし体験
4	5月 17日 (火)	近江八幡市立沖島小学校 6年生	1人	1人	展示見学、土器に触れてみよう、 火起こし体験
5	5月 25日 (水)	近江八幡市立老蘇小学校 6年生	23人	2人	展示見学、火起こし体験
6	5月 31日 (火)	愛知県尾張旭市立旭中学校 2年生	42人	2人	展示見学
7	6月 7日 (火)	近江八幡市立安土小学校 6年生	106人	7人	展示見学、火起こし体験、 土器に触れてみよう
8	6月 9日 (木)	近江八幡市立安土中学校 1年生	112人	8人	展示見学
9	6月 10日 (金)	豊郷町立豊郷小学校 6年生	53人	4人	展示見学、火起こし体験
10	6月 14日 (火)	守山市立守山学校 6年生	204人	12人	展示見学、回廊展示見学
11	7月 13日 (水)	近江八幡市立島小学校 6年生	23人	2人	展示見学
12	7月 26日 (火)	富士宮市・近江八幡市小学校 6年生	38人	27人	展示見学（第52回富士宮市・近江八幡市児童交歓会）
13	8月 6日 (土)	私立近江高校 1年生	1人	1人	展示見学
14	9月 15日 (木)	神戸市立義務教育学校 港島学園学校 8年生（中学2年生相当）	92人	10人	展示見学
15	10月 27日 (木)	東近江市立湖東第二小学校 6年生	25人	4人	展示見学、土器に触れてみよう
16	11月 4日 (金)	東近江市立箕作小学校 6年生	87人	5人	展示見学、土器に触れてみよう
17	11月 12日 (土)	私立東海中学校 2年生	75人	4人	展示見学
18	11月 17日 (木)	近江八幡市立桐原東小学校 6年生	68人	7人	展示見学、火起こし体験
19	1月 19日 (木)	東近江市立八日市北小学校 6年生	75人	5人	展示見学、土器に触れてみよう
計		19校	1,262人		

4. 年間入館者数

区分	令和3年度(人)	令和4年度(人)
個人	11,864	17,344
団体※	14,353	10,219
総数	26,217	27,563
うち 高齢者・身障者等	4,798	2,274

(※欄は20人以上の団体料金適用の人数)

「県立琵琶湖文化館」

1. 施設の管理

(1) 建物等の維持管理

施設・設備等について、日常管理および定期的な点検を実施し、必要に応じて小修繕を行う等、適切な維持管理に努めた。また、施設周辺の美化にも尽力した。

修繕箇所) 収蔵庫エアコン 1 基、本館 1 階ギャラリー給気口等の雨漏り、地下排水ポンプ 1 基等

(2) 施設の保安・防火点検等

火災や地震等の緊急時に即応するため緊急連絡体制を敷き、自衛消防組織を編成した。また、休日・夜間等の職員不在時は、機械警備を実施し、安全の確保に努めたほか、防火設備等については業者委託による定期的な保守点検を実施した。

- ・建築基準法 12 条に基づく点検 (施設設備・建築設備・防火設備)
- ・消防法に基づく消防設備点検 (機器点検・総合点検)
- ・電気事業法に基づく高圧受電設備点検 (保守点検・停電保守点検)
- ・フロン排出抑制法に基づく第 1 種特定製品点検 (業者点検・職員による簡易点検)

(3) 県有施設点検マニュアルに基づく点検および報告

点検マニュアルに基づき施設・設備の点検を行い、結果を県に報告したほか、必要に応じて施設の状況報告を行った。

2. 収蔵資料の管理

(1) 収蔵品の通常保管管理

収蔵庫内において館蔵品および寄託品を適切に保存・管理するため、防虫防黴対策として、委託業者による年間を通じた文化財害虫や空中菌の生息状況のモニタリングおよび計画的な燻蒸を実施。新規寄託文化財については、密閉テント式燻蒸を行い収蔵した。また、日常的に良好な収蔵環境を維持するための作業に協力し、図録等の収納・整理を行った。

(緊急避難等の理由による文化財の一時寄託受入れ 5 件)

(2) 貸出および返却作業 (貸出および返却に必要な小修繕含む)

資料の貸出や返却、特別観覧等について、スムーズに作業が行えるように県職員をサポートした。また、収蔵品に必要な小修繕を行った。

収蔵品小修繕) 大トンボ設計図面 1 件

3. 展覧会への協力

県等と協働で実施する収蔵品展において、リーフレットやパネルを作成する等、開催支援を行ったほか、準備・開催にかかる業者の手配および支出行為等を行った。

（1）琵琶湖文化館地域連携企画展

館の収蔵品を中心に、県内の3地域と連携し展示公開をおこなう地域連携企画展を開催した。

① 「鷺尾光遍作「青鬼踊」原稿（琵琶湖文化館蔵）展示公開」

石山寺第50世座主であった故・鷺尾光遍師が作成した「青鬼踊」の歌詞原稿を館の保管資料の中から発見した。「青鬼踊」は、石山寺で毎年5月に行われる青鬼まつりの中で、蛍の精と青鬼が酒を飲み交わして踊るもので、唄の作詞を光遍師が手掛けられた。長らく踊りは絶えていたが、2019年の令和改元を祝って復活しており、まつりに合わせて本原稿を展示公開した。

会期 令和4年5月14日（土）～6月30日（木）

会場 大本山石山寺 豊淨殿

主催 滋賀県・滋賀県立琵琶湖文化館・大本山石山寺

入館者数 2,224人

② 「近江湖南に華開く宗教文化—野洲・守山の神と仏—」

旧野洲郡は古代より仏教文化が栄えた地域であり、貴重な文化財が数多く伝わる。本展では、琵琶湖文化館と野洲市歴史民俗博物館の収蔵品を中心に、寺外初公開となる仏像等を交え、重要文化財3件、県指定8件、野洲市・守山市指定12件を含む名品の数々を一堂に公開し、郷土に残る様々な文化財を通して地域の魅力に触れていただく機会とした。

会期 令和4年10月8日（土）～11月27日（日）

会場 野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）

主催 滋賀県立琵琶湖文化館・野洲市・野洲市教育委員会

特別協力 守山市教育委員会

入館者数 2,486人

関連事業 講演会・ギャラリートーク

10月29日（土） 参加者 38人

「野洲郡が誇る仏教・神道美術—出品作品を中心に—」

講師 和澄浩介（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館）

11月12日（土） 参加者 45人

「近江湖南に根づいた真宗文化」

講師 渡邊勇祐氏（守山市教育委員会文化財保護課）

11月26日（土） 参加者 54人

「近江国野洲の古社 御上神社・兵主神社の歴史と文化」

講師 齊藤慶一氏（野洲市歴史民俗博物館学芸員）

③ 「琵琶湖文化館収蔵品にみる四季」

館の収蔵品の中から、作品に表現された季節の美しさに焦点を当てた展示をすることで、作品に表現された日本と近江の豊かな四季を感じていただき、その魅力を再発見していただく機会とした。

※滋賀県立安土城考古博物館第67回企画展として開催

会期 令和5年2月4日(土)～4月2日(日)
会場 滋賀県立安土城考古博物館
主催 滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県立安土城考古博物館
入館者数 3,376人(3月31日現在)
関連事業 ◇新しい琵琶湖文化館にメッセージを届けよう！
[投票] あなたが思う『新しい文化館でも見たい作品・文化財』
は何ですか？
[募集] 新しい文化館での『展覧会へのご意見』をお知らせください！
◇座談会「新しい文化館と収蔵品を語る」
3月19日(日) 参加者 30人
登壇者 和澄浩介(滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館)
田澤 梓(滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館)
福西貴彦(滋賀県文化財保護課)
岩崎里水(安土城考古博物館学芸員)

4. 講座等への協力

県と協働で実施する滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコヅチ」の開催等、普及啓発事業の実施に協力した。

(1) 滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコヅチ」全6回+特別講座

県と協働のもと、滋賀の文化財にまつわる最新情報を県民に向けて積極的に発信する「滋賀の文化財講座」を、ネーミングライツパートナーに株式会社国華荘(おごと温泉:びわ湖花街道)の協力を得て開催。本年は新型コロナウィルス感染拡大防止のため、募集人数を縮小し、各回の申込みとするなどの対策を講じて実施し、オンライン配信によるサテライト会場での受講も可能とした。

主催 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課・滋賀県立琵琶湖文化館
後援 滋賀県文化財保護連盟・公益社団法人びわこビジターズビューロー・公益財団法人滋賀県文化財保護協会
座学メイン会場 コラボしが21(大津市打出浜2-1)3階大会議室
第1回 5月25日(水)
「滋賀県の誕生と県政150年」
講師 井上 優(滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館)
第2回 6月23日(木)
「延暦寺の阿弥陀八大菩薩像について—令和三年度滋賀県新指定文化財紹介①—」
講師 古川史隆(滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館)
第3回 7月21日(木)
「民俗文化財の保存修理」
講師 矢田直樹(滋賀県文化財保護課)

第4回 8月18日(木)

「敏満寺区の銅造大日如来像と多賀町の文化財

—令和三年度滋賀県新指定文化財紹介②—

講師 和澄浩介(滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館)

第5回 9月15日(木)

「琵琶湖文化館収蔵品にみる四季と年中行事」

講師 田澤 梓(滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館)

第6回 10月27日(木) 現地探訪

「野洲市御上神社とその周辺」

講師 和澄浩介(滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館)

特別講演 3月14日(火) ※開催はメイン会場のみ

「『近江のなれずし製造技術』登録記念講演会」

講師 橋本道範氏(滋賀県立琵琶湖博物館)

演題 「フナズシ研究最前線」

【主催】	定員	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	特別講演
メイン会場	(100 暫定)	100人	110人	92人	93人	86人	—	85人
現地探訪	(40)	—	—	—	—	—	40人	—

小計 606人

サテライト会場		定員	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
彦根市	稲枝地区公民館	(15)	9人	10人	7人	12人	7人
長浜市	曳山博物館 伝承スタジオ	(30)	—	—	4人	—	—
湖南市	共同福祉施設 サンライフ甲西	(20)	—	—	4人	6人	6人
高島市	市立新旭公民館	(20)	—	10人	—	3人	—
日野町	近江日野商人ふるさと館	(20)	—	—	7人	—	—
多賀町	多賀町立博物館	(20)	5人	8人	7人	18人	9人
計			14人	28人	29人	39人	22人

小計 132人

[合計 738人]

4. その他

(1) 記録に残そう大作戦！【大トンボと琵琶湖文化館】

館のシンボルとして長年親しまれてきた大トンボのモニュメントを屋根から取り外すにあたり、大トンボの姿を記録として末永く残すため、様々な活動に取り組んだ。

①「記録に残そう大作戦！【大トンボと琵琶湖文化館】写真投稿募集」

撤去を前に、広く一般から思い出の写真を募り、投稿作品をホームページで公開した。

募集対象 「琵琶湖文化館が写った写真」

大トンボと琵琶湖文化館が一緒に写った写真や大トンボにクローズアップした写真、子どもの頃の記念写真など、新旧問わず幅広く募集した。

募集期間 令和4年8月25日（木）～10月11日（水）

投稿者数 84人

投稿点数 195点（内、163点をホームページで紹介）

投稿者には、記念に投稿の写真をマグネットにして進呈した。

②「【大トンボと琵琶湖文化館】写真パネル展－記録がつむぐ思い出写真－」

寄せられた投稿作品を一堂に展示するパネル展を開催。館が保管している記録写真に加え、琵琶湖博物館・大津市歴史博物館が所蔵する古写真などを併せて展示し、多くの人々の思い出と共にその歴史を振り返った。

会期 令和4年11月15日（火）～11月30日（水）

会場 大津市内2会場

・京阪びわこ浜大津駅ターミナルデッキ2階

・滋賀県庁2階 本館－新館間渡り廊下

主催 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課・滋賀県立琵琶湖文化館

特別協力 滋賀県立琵琶湖博物館・大津市歴史博物館

③「文化館写真集」に大トンボの写真を公開

大トンボの撤去は1月26日深夜に行われたが、屋根から取り外す作業の様子や館内に収納された大トンボの写真をホームページに公開し、画像をダウンロードすることが出来るよう配慮した。

(2) 広報活動

①ホームページの更新

- ・実施する事業や文化財に関する情報、休館中の活動内容等を紹介するホームページを随時更新した。
- ・他館において収蔵品を観覧することができるよう「収蔵品公開情報」の中で適宜情報提供を行った。
- ・県が制作したドローン撮影動画を「デジタルアーカイブ」に掲載した。
- ・ホームページの更新にあわせて、屋外掲示板にて情報を発信した。

②報道機関への情報提供

報道関係機関等に対し、適宜資料提供を行った。

③研究紀要の発刊

学芸員の調査研究成果の発表および当該年度の活動実績報告（年報）として「研究紀要第39号」を発刊した。

(3) 寄託品所有者への対応

寄託品所有者に対して寄託更新等にかかる必要な手続きの補助を行った。

(4) 各種問い合わせへの対応・保存支援

一般からの電話や来館等の問い合わせに対し、適切に対応した。

「県埋蔵文化財センター」

1. 埋蔵文化財の遺物および資料の収蔵・保管

(1) 出土遺物、資料の受け入れ

当協会が実施した整理調査で報告書が刊行された番場・播沢遺跡等の出土遺物、図面資料、写真資料を受入、収納した。（収納資料は土器 17 箱、石器 2 箱、木製品 2 箱、金属器 1 箱の合計 22 箱である。図面資料はファイル 5 冊、写真資料はアルバム 6 冊とデジタルデーター 5 点である。）

(2) 資料の貸出等

①資料の貸出

博物館や資料館の展示等に資料の貸出を実施している。今年度は、23 件の貸出を実施した。

②資料調査の受入

出土資料活用の一環として、学術研究等の目的のための資料調査の申し出を受け入れている。今年度は 27 件の個人・団体を受け入れた。

③写真資料等の貸出および掲載許可等

書籍等への掲載のための写真・図面資料等の貸出や掲載許可等の業務を行っている。今年度は写真資料の貸出は 78 件（掲載・転載・撮影等を含む）であった。

(3) 図書整理

①図書資料の受入

県外等から発掘調査報告書、年報、紀要、一般図書等 1,984 冊の寄贈を受けた。受け入れ図書は登録番号を添付し、書庫・第 3 収蔵庫に保存した。また、書名、発行所、登録番号等のデーターを入力し保存し、資料の検索や在庫の問い合わせに対応した。

②図書資料の閲覧

埋蔵文化財関係者や研究者、学生、一般にも書庫を開放し、図書資料の閲覧を行えるようにしている。今年度には 42 人の閲覧があった。

2. 展示事業

(1) ロビー展示

1 階ロビーにおいて常設展示を行い、一般公開し、埋蔵文化財に対する知識の普及啓発に努めた。

ア. 「ドングリからコメへ—淡海の弥生文化は水辺から始まった—」

滋賀県における弥生時代のはじまりについて出土遺物と写真パネル、文字パネル等を用いて紹介し、また、一般の方から展示の要望が多い東近江市相谷熊原遺跡や高島市上御殿遺跡の短剣鋸型を一定期間常設展示すると共に史跡紫香楽宮跡（内裏野地区）の遺物展示も行った。

イ. 「森と人」

滋賀県における縄文時代から古代にかけての森林と人・遺跡の関係について出土遺物と写真パネル、文字パネル等を用いて紹介を行った。また、収蔵品展示として相谷熊原遺跡の土偶（複製品）、小川原遺跡の土偶、入江内湖遺跡の丸木舟等の展示も行った。

（2）JR湖西線大津京駅構内での文化財関連展示

JR 大津京駅構内の展示場で、埋蔵文化財保護の普及・啓発を目的とした展示を 4 回実施した。

① 「湖西線各駅停車遺跡めぐり【近江塩津駅 2】」

塩津港遺跡から出土した起請文木札や古代の神社跡について遺物やパネルを展示（4 月～5 月）

② 「史跡でみる縄文時代から古代の遺跡【相谷熊原遺跡】」

県指定史跡相谷熊原遺跡について遺物とパネルを展示（6 月～9 月）

③ 「史跡でみる縄文時代から古代の遺跡【春日山古墳群】」

国指定史跡春日山古墳群について遺物とパネルを展示（10 月～1 月）

④ 「史跡でみる縄文時代から古代の遺跡【紫香楽宮跡】」

国指定史跡紫香楽宮跡について遺物とパネルを展示（1 月～）

3. 普及啓発事業

（1）収蔵品を活用した普及・啓発事業

今年度は新型コロナウィルス感染症の流行にもかかわらず、前年度に比べて県内小・中学校等の学校教育の一環として実施される出前授業は増加した。一方で、職場体験は新型コロナウィルス感染症の流行に伴い前年度並みと低調であった。

こうした中、近江国庁跡等の現地を案内するとともに、出土品を使った出前授業等も行った。また、「みどりのつどい 2022」、「文化ゾーンフェスティバル」等のイベントで埋蔵文化財センターの一般公開など文化財の普及に努めた。

普及事業は学校関係として出前授業 12 校、職場体験 4 校、その他、体験学習 4 回、イベント等 4 回を行った。普及事業の参加者総数は 1,546 人であった。

（2）ホームページの活用

埋蔵文化財センター開催の「ロビー展示」、「大津京駅構内展示」等の行事を随時紹介し、広報に努めた。また、各種申請用紙を掲載し業務の省力化に努めた。

（3）執筆・編集関係

①『埋もれた文化財の話 43』の編集

ロビー展示の解説をかねて「森と人—遺跡・遺物からみた森と人の関係」をテーマに滋賀県における縄文時代から古代にかけての森と人・遺跡の関係についてまとめ、執筆・編集した。

4. 施設の維持管理

(1) 庁舎維持管理委託業務

埋蔵文化財センターの施設の維持管理に関して、防災点検、水質点検、建物点検等 12 項目の定期点検業務を委託して実施した。その他、ロビー階段上照明取替工事、大石収蔵庫・早崎収蔵庫建築基準法に基づく建物定期点検業務、身障者用（多目的）トイレのフラッシュバブル改修工事、冷暖房用熱源発生装置の送風機更新工事、機械室前舗装打ち換え工事を実施した。

(2) 収蔵庫・収納品点検

埋蔵文化財センター以外に出土遺物を収納している 3 か所の収蔵庫を管理している。月に 1 回の点検を行い、資料の収蔵状況、収納遺物の確認、収蔵庫の外壁や屋根等の損傷、雨漏り、害虫、施錠等の状態を確認した。早崎収蔵庫・大石収蔵庫については、防犯カメラの確認を行った。

出土遺物に関しては、3ヶ所の収蔵庫以外、近江風土記の丘第 1 ~ 第 3 収蔵庫の月に 1 回の資料の収蔵状況、収納遺物の点検を行った。また、早崎収蔵庫と大石収蔵庫は 5 月と 10 月に敷地内の除草、6 月と 12 月に消防点検を行った。

5. 施設の利用

昨年度に引き続き新型コロナウィルス感染症の流行が収まらなかつたが、入館者総数は 4,706 人と新型コロナウィルス感染症流行前と同じ程度まで回復した。

VII. 文化財保護資金貸付事業および文化財活用資金貸付事業

(1) 貸付審査会

第1回 令和4年7月27日(水)

第2回 令和5年2月10日(金)

(2) 文化財保護資金貸付事業実績

貸付先	市町名	貸付金額(円)	対象事業	文化財の名称
本町曳山保存会 代表者 外池 多津彦	日野町	1,490,000	日野曳山祭 本町曳山 山倉修理事業	滋賀県無形民俗文化財 日野曳山祭 本町曳山
大窪4区岡本町町内会 区長 西川 博明	日野町	810,000	日野曳山祭 岡本町曳山 山倉大扉修理事業	滋賀県無形民俗文化財 日野曳山祭 岡本町曳山
宗教法人不動寺 代表役員 福家 俊彦	大津市	10,000,000	重要文化財 不動寺本堂 建造物保存修理事業	重要文化財 不動寺本堂
宗教法人桑実寺 代表役員 北川 喜雄	近江八幡市	7,000,000	防災施設整備事業	重要文化財 桑実寺本堂
計		19,300,000		

(3) 文化財活用資金貸付事業実績

なし

(4) 総貸付件数(累計)

- 文化財保護資金 令和5年3月末 364件
- 文化財活用資金 令和5年3月末 2件

(5) 貸付残高

- 文化財保護資金 令和5年3月末 39,264,000円
- 文化財活用資金 令和5年3月末 0円

(6) その他

文化財所有者や市町の文化財担当者に向けた文化財保護資金・活用資金関係の広報媒体について作成し、各市町を通して所有者または管理者向けに配布した。

- 作成部数 500部
- 印刷経費 15,100円